

「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。掲載料は無料です。



12 DEC

公開講座
「言葉の選択で人生は豊かになる！」 **12月 6日(土)**
9:00▶10:30 無料 要申込

講師 小石俊聡氏 (仙台大学教授) ※申込締切: 11/29 (土)
場所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名
主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座
「アメリカ文学とサンタクロース」 **12月 6日(土)**
10:30▶12:00 無料 要申込

講師 中山悟視氏 (尚絅学院大学総合人間科学系人文部門教授)
場所 仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール 定員 50名 (先着)
主催者 尚絅学院大学長町サテライトプラザ 問合せ TEL 022-302-6145

公開講座
「これからの子どもたちの運動の在り方
「大人の関わり方」」 **12月 6日(土)**
10:40▶12:10 無料 要申込

講師 江尻雅彦氏 (仙台大学教授) ※申込締切: 11/29 (土)
場所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名
主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座
「試験に受かるための心理学」 **12月 6日(土)**
13:30▶15:00 無料 要申込

講師 友野隆成氏、瀧澤純氏 (宮城学院女子大学学芸学部心理行動科学科)
場所 仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール 定員 50名 (先着)
主催者 宮城学院女子大学教務課 問合せ TEL 022-279-4703

3.11 学びなおし塾
「集まりながら「次」を描くー現地再建エリア
にみる地域コミュニティ再形成のあり方ー」 **12月 7日(日)**
11:00▶12:00 無料 申込不要

講師 田澤紘子氏 (東北芸術工科大学デザイン工学部講師)
場所 みやぎ東日本大震災津波伝承館 多目的スペース
主催者 宮城県復興支援・伝承課・東北大学災害科学国際研究所 問合せ TEL 022-752-2140

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座
「女乗物と江戸時代の工芸技術」 **12月13日(土)**
10:30▶12:00 無料 要申込

講師 落合里麻氏 (東北生活文化大学美術学部准教授)
場所 仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール 定員 50名 (先着)
主催者 東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部企画課 問合せ TEL 022-346-1207

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座
「心理学から幸せを考える」 **12月13日(土)**
13:30▶15:00 無料 要申込

講師 福野光輝氏 (東北学院大学人間科学部教授)
場所 仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール 定員 50名 (先着)
主催者 東北学院大学研究支援課 問合せ k-soken@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

**仙台文学館ゼミナール 2025 :
小池光短歌講座 第177回** **12月13日(土)**
13:30▶15:40 有料 要申込

講師 小池光氏 (歌人) ※申込締切: 11/14 (金)
場所 仙台文学館講習室 定員 70名
主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

後期基礎講座 第3回
「吉野作造の文章を読んでみよう」 **12月13日(土)**
14:00▶16:00 無料 要申込

講師 氏家仁氏 (吉野作造記念館館長)
場所 吉野作造記念館 定員 30名
主催者 吉野作造記念館 問合せ TEL 0229-23-7100

公開講座
「スポーツマネジメントについて考える」 **12月20日(土)**
10:40▶12:10 無料 要申込

講師 川田尚弘氏 (仙台大学准教授) ※申込締切: 12/13 (土)
場所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名
主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

第71回

名著への旅



「プロジェクト・ヘイル・メアリー」
アンディ・ウィアー著
(小野田和子訳)
早川書房
(2021年12月25日初版発行)

ある男がある場所で目覚める。身体には管が繋がれており、自分が何者でどこにいるかもわからない。自分は誰で何のためにどこにいるのか。それを紐解いていく鍵は、自らの物理学の知識と基礎的な理科の実験道具だった…。本作は2026年にライアン・ゴズリング主演で映画化される。本書未読のかたは、騙されたと思ってこれだけの情報のみで読み進めてほしい。いわゆる「ネタバレ」が全くない状態で読むのが、一番楽しい作品である。映画の予告編も見ないほうがよい。作者のアンディ・ウィアーは「火星の人」で長編デビューし、同作は『オデッセイ』の邦題で映画化された。本作ではある人物が「人類史の大半は食糧確保であった」と言った趣旨の発言をする。思えば、火星に取り残された宇宙飛行士のサバイバルを描いた『火星の人』でも、まず取り組んだのはじゃがいも作りであった。ウィアーは常に「食事」と「睡眠」(とカフェイン)を描く作家であると言える。宇宙開発においても食糧生産は最重要問題であるという。ウィアーが米を主食とする人物の宇宙サバイバルを書いたらどのようなになるのか。(寺)



参加体験記募集中!

読者の皆様に参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈! ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント!

※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。「まなびのめ」編集部へはがき、FAX、E-mail、Web 版投稿フォームよりお送りください。

第69号 まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第 69 号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

- Q.1 地域の専門職の皆さんとともに発定させた高齢者ケアに関する研究・情報交換会の名前はアルファベットで何と書くでしょうか? 答え「Gcomsus」
- Q.2 ベアレント・トレーニングの基本は何でしょう? 答え「ほめること」

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から抽選で3名様に図書カードが当たりますので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

「氣」になる「氣」…当社は言葉を組み立てる職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先 / 問い合わせ先
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
(FAXは24時間受付 電話受付時間 10:00~16:00 土・日・祝日除く)
✉ manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第70号/発行日2025年10月5日
企画・編集 「まなびのめ」編集部/発行 笹氣出版印刷株式会社

オブザーバー: 寺田征也 (明星大学) 協力: 株式会社市瀬 有限会社阿部正志製本

©笹氣出版印刷株式会社 無断で複製、複製、転載することを禁じます。この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は、適切に管理されたFSC® 認証林およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。



♡ご自由にお持ち帰りください。

TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付
クイズあります
詳しくは中面へ

学術の世界と市民をつなぐ情報誌



季刊誌 2025. 10 第70号

学びの庭に
おじゃまします

稲作

日本の稲作にはまだまだ可能性がある



東北大学大学院 農学研究科 教授
(土壌肥科学・水田土壌管理学)

西田 瑞彦 先生

「令和の米騒動」を機に価値の転換を



宮城教育大学 教育学部 准教授
(歴史社会学・社会思想史)

山内 明美 先生

- これからの主な「学び」イベント 39件 掲載!
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『プロジェクト・ヘイル・メアリー』 (アンディ・ウィアー著)

● Voice Park



Web版 随時更新中! まなびのめ
http://manabinome.com/



発行 / 笹氣出版印刷株式会社

これからの主な 「学び」 イベント 有料 無料 無料(要付) 要申込 申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。
※ 無料(要付)は別途入場料等が必要。

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/

ここに掲載する情報は、主催者である各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

展示

学園創立 150 周年記念 I 「荘厳の世界 芹沢銈介」 **~1月30日(金)**
10:00▶16:30 有料 申込不要

※入館は 16:00 まで。休館日は HP を参照。
場所 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
主催者 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館 問合せ TEL 022-717-3318

特別展 「樋口一葉・その文学と生涯 一貧しく、切なく、いじらしくー」 **10月4日(土)~12月14日(日)**
9:00▶17:00 有料 申込不要

※入館は 16:30 まで、休館日:月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、第4木曜日
場所 仙台文学館企画展示室
主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

令和7年度秋季特別展 「宮城に生きる民俗 一暮らしを伝えるモノ語りー」 **10月11日(土)~12月21日(日)**
9:30▶17:00 有料 申込不要

場所 東北歴史博物館
主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

企画展示 「土星の環のふしぎ」 **10月24日(金)~12月28日(日)**
9:00▶17:00 有料 申込不要

場所 仙台市天文台展示室
主催者 仙台市天文台 問合せ TEL 022-391-1300

シルバーセンター 福祉用具展示・相談会 **11月10日(月)~11月14日(金)**
10:00▶16:00 無料 申込不要

※ 11/10 は 12:00 開始、11/14 は 15:00 終了
場所 宮城野区役所 1 階ロビー
主催者 (公財) 仙台市健康福祉事業団 介護研修室 問合せ TEL 022-215-3711

10 OCT

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座 「考え方が変わる! プロブラミングの思考入門」 **10月18日(土)**
13:30▶15:00 無料 要申込

講師 菅原研氏 (東北学院大学情報学部教授)
場所 仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール 定員 50名 (先着)
主催者 東北学院大学研究支援課 問合せ k-soken@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

宮城県女医会市民公開講演会 「「痛み」に対する新しい試み~スポーツ傷害から変形性膝関節症まで~」 **10月19日(日)**
14:00▶15:30 無料 申込不要

講師 板谷信行氏 (JR 仙台病院整形外科主任医長)
場所 仙台市急患センター2階 (仙台市医師会館多目的ホール) 定員 200名
主催者 宮城県女医会 問合せ TEL 022-397-6581

市民公開講座 No.618 「みやぎの水環境 全国水質ワースト1位の伊豆沼のこれらを考えよう」 (オンライン) **10月24日(金)**
18:00▶19:15 無料 要申込

講師 山田一裕氏 (東北工業大学環境応用化学課程教授)
場所 オンライン開講 (Zoom)
主催者 東北工業大学地域連携センター 問合せ TEL 022-266-5222

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座 「LCC (格安航空会社) はなぜ安いのかーグローバル化の落とし子としての LCC」 **10月25日(土)**
10:30▶12:00 無料 要申込

講師 三須拓也氏 (東北学院大学国際学部教授)
場所 仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール 定員 50名 (先着)
主催者 東北学院大学研究支援課 問合せ k-soken@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

学びの庭に
おじゃまします

日本人誰も食べているお米。このお米を毎日のように食べられるようになったのは先人たちの研究開発の賜物です。そしてその研究開発は今でも変わらず続けられ進歩し続けています。農家のみなさんが作る米の向こう側でどんな研究が行われているのか、西田先生に伺いました。

日本の稲作にはまだまだ可能性はある

水田は連作障害に強い優れたシステム

岩手県の、田畑が広がる地域の出身です。実家は農家ではありませんが、農作業に励む人々を見て育ち、中学生の時には「食べ物をつくる農業は人間にとっての基本だな」と思うようになりました。一方で、経済的に恵まれていない農家さんがいることにも気づき始めます。高校で農学部への進学を決めたのは、もっと農家さんを元気にしたいという気持ちからです。

大学での学びは充実していたのですが、環境問題にも関心が広がり、一度は総合商社に就職しました。環境問題の解決に、食料事業を通して寄与したいと考えたのです。しかし2年ほど働く中で「やはり食料をつくる側に立ちたい」と思うようになり、国家公務員試験を受けて農林水産省の研究職に転じました。

都道府県の公立農業試験場は、品種改良や農家さんへの対応が主な仕事です。一方、私が所属していた国立の「農研機構」は、1893（明治26）年にルーツとなる試験場が設立されて以来、基礎から応用まで幅広い研究を積み重ねてきました。我が国の公立農業試験場や農研機構では、長期連用試験が続けられてきましたが、英国における小麦の研究を除けば、世界的にもこれだけ長期にわたってデータを蓄積してきた例はありません。私は最初に九州、のちに東北に配属され、水田を中心に研究してきました。7年前からは母校に戻り、現在は基礎研究や技術開発に加えて教育にも携わっています。しかし「農家さんのため



東北大学大学院 農学研究科 教授
専門＝土壌肥科学・水田土壌管理学

西田 瑞彦 先生

《プロフィール》(にしだ・みずひこ) 岩手県生まれ。東北大学農学部卒業。東北大学大学院 農学研究科前期課程修了。博士(農学)。総合商社に勤務後、農林水産省九州農業試験場、農研機構(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構)東北農業研究センター等を経て、2018年より現職。2024年より農学研究科 附属複合生態フィールド教育センター センター長。共著書に「農学生命科学を学ぶための入門生物学」、「世界の土・日本の土は今 地球環境・異常気象・食料問題を土からみると」など。

に」と「環境問題の解決を」という私の目標は、一貫して変わることがありません。

肥料を施さなかった場合、水田で作る稲は、たとえば同じ面積の畑地で作るコムギに比べ、多くの収量を上げることができます。また何十年も何百年も同じ水田で稲を作り続けていますが、これは当り前のことではありません。同じ土地で同じ作物を栽培し続けると、多くの場合は土の中の特定の元素の過剰や欠乏、そして病原菌の増加によって「連作障害」が起き、生育不良が発生します。しかし農家さんは世代を超えて水路や畦畔(けいはん＝あぜ)の管理、稲に合わせた「土づくり」を続け、栽培期間中に水を張るという作業を丁寧に繰り返し続けることで、これを防いできたのです。

水田は畦畔で囲まれているため、畑に比べて土が流出しにくいという特長があります。また水は温まりにくく冷えにくいため、適切な温度管理が可能です。「肥料の三要素」である窒素、リン、カリウムのうち、リンは水田に水を張ることで土壌から稲に利用されやすくなることができます。そして水はpH(ペーハー)を保ち、土壌が過度に酸性やアルカリ性に傾くことを防ぎます。このように、水田はわざわざ優れた栽培システムなのです。

環境・生態系重視の農業技術の開発

稲作で収量と食味を両立するには、土づくり、水の管理、適切な種類と量の肥料を適切な時期に入れる、除草、などなど大変な手間がかかります。しかしたとえば土づくりには、手間だけでなくお金もかかるのです。「ケイカル」という土づくり肥料の使用量を調べると、みごとに米価と連動していることがわかります。生産物が高く売れないと投資を控えるという点では、農業は他の産業・事業とまったく変わらないのです。

こうした日本の農業は、農学をはじめとする多くの分野の研究と技術開発が支えてきました。私の専門は土壌ですが、土は世界的にも劣化や浸食が進み、耕地や食料の危機が広がっています。国連は啓発のため、2015年を「国際土壌年」に制定しました。この「まなびのめ」でも特集を組まれていましたが、私たち研究者も市民向けの発信に力を入れ、日本土壌肥料学会として『世界の土・日本の土は今』という本を刊行しています。私も「田んぼと水田土壌が支えてきた「もの」と「こと」」の題で執筆していますので、ご一読いただければ幸いです。

今回の取材は仙台でお受けしましたが、私のメインの研究室は大崎市の鳴子温泉地区にあります。水田、畑、牧草地、森林

懸賞

図書カードを
当てよう!

まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に
図書カード1000円分をプレゼント

Q.1 リンを吸着させて耕地に施すことで肥料だけでなく様々な効果が期待できるものは?

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。山内明美先生の記事もご覧ください。

応募
方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び「応募締切」2025年12月10日 当日消印有効
発送に限り利用させていただきます。



規模化による効率化です。もう一つは化学肥料や農薬を減らしたりゼロにしたりする有機栽培などの、高付加価値化です。こうした地道な取り組みは、いま各地で実を結びつつあります。法人化も有効ですが、家族経営でも「もう農政に振り回されるのはごめんだ」と、米作りに加えて経済・経営も学び、事業家として成功している方を私は何人も知っています。

一方で規模の拡大が困難な中山間地の水田にも、私はチャンスがあると考えています。政治的にも技術的にも、まだ明確なビジョンはありません。しかし傾斜地に作られた棚田のダム機能や環境保全機能については、都市部でも認識が深まっています。こうした価値を守るためには、補助金だけでなく、労力の大きさや生産コストの高さに見合うだけの収量と食味、そして価格を実現する努力もし続けなければなりません。私たちの川渡フィールドセンターもまさに中山間地にあるため、これは中心的な研究課題の一つです。

たとえば米の品種の中には、通常の1.5倍もとれるものがあります。これは飼料用品種ですが、食用品種の開発でも、収量のさらなる向上の可能性を諦めることはできません。食味についても、コシヒカリとの単純な比較ではなく、インディカ米を含む多様な価値がもっと認められるようになれば、米の可能性が大きく広がると考えています。そして為替相場が円安に振られて輸出産業が好調なのであれば、高付加価値の米を海外に高く買ってもらう可能性もあります。

私は専門外の勉強にも色々と手を出してきました。しかし学びたいことはまだまだたくさんあります。何歳になっても楽しく、また人生を豊かにしてくれるのが「学び」です。皆さんも、ぜひご自分が楽しいと思われることを学び続けてください。そしてお米に、稲作に、農業に、土壌にも関心を持って、学んでいただければうれしい限りです。

(取材＝2025年8月27日／東北大学 青葉山新キャンパス 農学研究科・農学部棟3階 栽培植物環境科学教員研究室にて)

がそろい牛も飼っている、大学附属農場としては全国一の規模の「川渡(かわたび)フィールドセンター」の中です。東北大学には海洋生物資源を研究する「女川フィールドセンター」もあり、この青葉山を含む3つの拠点から成る「附属複合生態フィールド教育研究センター」で、私は昨年センター長を務めています。

川渡では今、環境を重視し、生態系と調和した農業技術の開発に力を入れています。実は水田は、温室効果ガスであるメタンを放出することで、環境に負荷をかけているのです。それを抑える方法、有機栽培の効率化、水鳥の保全を目指す「ふゆみずたんぼ」の効果など、様々な調査や実験を続けています。

中でも「リン含有炭」の開発は実用化が見えてきました。先ほど述べた通りリンは肥料の三要素のひとつですが、下水には豊富に含まれています。これを今は廃棄されている間伐材や竹から作った炭に吸着させて耕地に施すことで、肥料としてだけでなく、温室効果ガスの削減、土壌の物理性の改善などが期待できるのです。牛糞とともに堆肥にすると効果的であることも分かってきたので、これから実証実験に進みます。

農家さんの経営や食料自給率にも目を

昨年の夏以来、米の販売価格が大きく上昇し、品切れになる店が出るなど「令和の米騒動」と言われるほどの騒ぎになりました。流通の問題というより供給量が不足していたことが明らかになり、米の生産を抑制してきた農政の失敗だったという見方が広がっています。

米を含めて「食料がたりないなら外国から買えば良い」という考えもあります。しかし国際市場価格の動向を見たり、産地が天候不順や災害に見舞われる可能性も考えれば、楽観的に過ぎるでしょう。日本の食料自給率をカロリーベースで見ると、1960年度の79%から減り続け、2022年度は38%になっています。

一方で、農業に関する国の研究予算は減少しています。たとえば農研機構や公立農業試験場で続けられてきた、世界に誇る長期連用試験の継続さえ困難になりつつあるのが現状です。市民の皆さんには、食品の価格や品質だけでなく、農家さんの経営、環境問題、食料自給率、そして農業を支える研究などにも目を向けていただければと願っています。

日本の稲作は生産コストが高く、生産者の高齢化と減少が進み、海外産と競う力はないとよく言われますが、本当に可能性はないのでしょうか。私はそうは思いません。一つは水田の大

学びの庭に
おじゃまします

少し都心部を離れると、そこにある田んぼ。米どころ東北と言われるほど私たちに身近な田んぼとお米ですが、日本人の主食とされるお米について、東北の稲作の歴史と背景をお伺いしたところ、先人たちの苦勞が見えてきました。

「令和の米騒動」を機に価値の転換を

小学6年で実家の田を一枚任された

私は社会や思想の歴史について、稲作との関係を中心に研究しています。さて皆さんは、「自分が食べる分の米は自分で作れ」と言われたらどうしますか？ 私は宮城県南三陸町の農家の生まれです。南三陸は海のイメージが強いかもしれませんが、実家は山の方で、私が子どもの時は主に稲作で生計を立てていました。私が父から「自分が食べる分の米は自分で作れ」と田んぼを一枚割り当てられたのは、小学6年の時です。三角形の小さな田で、機械を入れることができない手間のかかる田なので、子どもにらせてみようと思ったのでしょう。

「自分の田んぼ」を得た私は、張り切って米作りを始めました。丸一日かけて鋤（すき）で田を起こし、田植えも草取りも稲刈りも手作業ですから大変です。いちばん難しかったのは水の管理で、早起きして水を入れ始めたまま止め忘れ、何度も田から水があふれて稲を水没させました。草取りも追いつかず、私の田だけが草ぼうぼう。それでも秋には150kgの収穫があって、私一人が1年間食べるには十分な量でした。



東京で大学に通った時期を除いて、今も私はその田を作り続けています。現在は実家とは別に南三陸に住まいがあり、その近くにも田を一枚購入しました。週末に通っていますが、この猛暑で草取りが追いつかないのが悩みです。

実家の農業は弟が継いで、今は「仙台牛」のブランドで知られる肉牛の生産が中心です。私が子どもの時も15頭ほど飼っていましたが、現在はおよそ200頭を世話しています。弟はBSE（牛海綿状脳症）と口蹄疫の対応に追われ、ようやく立ち直りかけたところで、東日本大震災と東京電力福島原発の事故に襲われました。出荷の停止、価格の暴落があり、今もBSE、口蹄疫、放射能の三重チェックを強いられています。新型コロナの広がりによる外食産業の低迷、輸入に頼る飼料価格の高騰などなど、稲作以外も農業は本当に大変です。

昨年から続く米の販売価格の高騰と供給不足への懸念は、「令和の米騒動」という言葉を生みました。この事態が都市の消費者に、農業の現状へと目を向けさせたことは確かです。しかし「備蓄米を安く放出すれば良い」「海外から輸入すれば良い」「米の生産を抑制してきた政策を変更してもっと作らせれば良い」といった声は圧倒的に大きく、農家の苦勞が報われたり、将来への不安が解消されたわけではありません。

「平成の米騒動」の経験は活かされなかった

「米騒動」という言葉は、一般的には1918（大正7）年に米価が高騰したときのことを指します。富山県の漁村の女性たちが起こした運動が全国に広がり、米穀商や精米会社が襲われるなどの暴動に発展しました。当時の寺内内閣は軍隊まで出動させ、これを抑えます。「大正デモクラシー」で民主的な思想が広がりを見せていた日本ですが、その後は第一次世界大戦後の深刻な不況や関東大震災（1923年）を経て、軍国主義へ、そして国内の米不足を東アジアの植民地化で解決しようとする国へと変わっていきます。

「平成の米騒動」を覚えているでしょうか。冷夏と日照不足による凶作で、タイなどから米を緊急輸入した1993（平成5）年のことです。平年を100とし、90以下が「著しい不良」とされる作況指数が全国で74、宮城県では実に37でした。私の実家では一反（約10アール）で約600kgの米が収穫できますが、この年はたった20kgでした。高校生だった私にとって「飢饉」という言葉は遠い昔の話ではなく、切実に自分の身に起きた出来事でした。これがのちの研究テーマへとつながることになります。

「平成の米騒動」の経験は、その後に活かされたとは言えません。私は大学や大学院で学ぶ中で、あの凶作が天候不順だけで起きたのではないことを知りました。たとえば私たちの集落ではほぼ全ての田で、当時人気だったブランド米「ササニシキ」を作っていました。令和の時代になり、まさかこれほどまで深刻な「飢饉」が起きるとは想像もしていませんでした。こうした背景には、資本主義という経済システムがもたらした社会的構造の困難が影響しています。

一方、日本が大量の米を輸入したことからアジア全体で米の価格が急騰し、当時はまだ途上国だった国々に大きな打撃を与えました。今でも途上国では、食糧の不足や作物の不作によって多くの方が飢饉で亡くなっています。しかし今後は同じようなことが、少子高齢化と人口減少が急速に進み、経済の行き詰

まりが明らかな私たちの国でも起こらないと、誰に断言できるのでしょうか。

世界的には人口が増え続けていますし、天災や戦争も収まる気配がありません。地球上で、土壌や水資源に恵まれ、トウモロコシ、小麦、米などの栽培に適した土地は限られています。種子の開発や穀物の取引・販売などを独占する多国籍の巨大商社を「穀物メジャー」と言いますが、そのレベルでは主要穀物の争奪戦が、すでに始まっているのです。このたびの「令和の米騒動」を機に、「日本はもう先進国ではない」という認識で私たちの価値観を転換し、食糧政策や産業構造などを根本から考え直すべきだと私は思います。

〈東北〉に学ぶことで持続可能な未来を

後進国だった日本は明治維新後、近代化を急ぎ、近隣諸国と争い、朝鮮半島や台湾を支配しました。日本が植民地を必要とした大きな理由は食糧不足です。それまで大量の米を輸入していた東アジアを植民地にすることで、現地の労働力や資源を収奪し、現地の在来種ではなく、日本品種を持ち込んで広げたりもしました。

その後は第二次世界大戦の敗戦、朝鮮特需等を経て先進国の仲間入りをします。工場を続々と建設し、その工場には質が高く長時間労働をいとわないうさんの労働者を育成して、東北をはじめとする地方から集団就職などで集めました。

そして工業に加えて農業でも、技術開発が盛んに進められます。植民地を失って深刻な食糧不足に陥った日本は、今度は東北や北陸を広大な稲作地帯へと変えていきました。稲はもともと熱帯の植物ですが、品種や土壌の改良といった極めて高度な近代農業技術によって、寒冷地での栽培を実現します。それは血のにじむような努力の積み重ねでした。「日本は主食の米を自給できる」とか「米どころ東北」という現代の常識は、実は1960年代以降に確立されたのです。

かつて地方農村の多くの地域では、米は特別なときの食べ物でした。普段はわずかなコメに大根やカブ、アワやヒエなどを混ぜたカテ飯や、ソバなどで自足していました。焼き畑がざかな地域ではカブが主食という集落も少なくありませんでした。北海道から沖縄まで、気候のことなる津々浦々の土地柄で、食は実に多様だったのです。やがて、資本主義経済のなかで「米が主食」の生活に馴染んでいきます。また品種改良の努力が報われ、収量と食味が大きく向上したことで、徐々に「日本人の主食である米の生産を担っている東北」というメインストリー

懸賞

図書カードを
当てよう！

まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に
図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 ササニシキの10アール当たりの収穫量はおよそ何kgですか？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。西田瑞彦先生の記事もご覧ください。

応募
方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び【応募締切】2025年12月10日 当日消印有効
発送に限り利用させていただきます。

ムの自画像を誇りとするまでになったのです。

しかし高度経済成長以後、農家の経営は米が余るようになり、価格が低迷したことで行き詰まります。東日本大震災と連動した東京電力福島原発の事故の発生は、東北地方の穀倉地帯化と無縁ではない、近代技術と結びついています。東北地方で稲作を推進するためには、土壌改良のための化学肥料が必要であり、こうした化学肥料を製造するには、膨大なエネルギーを必要とします。東北地方が穀倉地帯化していった経緯を低開発化とする議論は今も圧倒的ですが、そうではなく、実は極めて高度な近代農業技術によって成立していたと考えるべきだと思います。そういう意味では、地方に原発が置かれることもまた、近代技術の実験地としての役割もあるでしょう。福島第一原子力発電所の電力は東京都民が使用する電気を福島でつくっていたという事実については、みなさんも周知の事実だと思います。こうした社会構造を背景に、私は〈東北〉を考えてきました。農業や漁業はエッセンシャルワークと呼ばれます。近代家族の中で家事・育児・介護を担ってきた女性と同じように生存基盤を支える極めて重要な役割を担ってきました。しかし、資本主義経済がこれらを置き去りにしてきた趨勢を見直さなければ、新たな「飢饉」がやってくると思います。それが人災だということを、令和の米騒動のなかで知ってほしいと思います。

（取材＝2025年8月18日／宮城教育大学3号館4階

社会科教育実験実習室にて）



宮城教育大学 教育学部 准教授
専門＝歴史社会学・社会思想史

山内 明美 先生

〈プロフィール〉（やまうち・あけみ）1976年宮城県生まれ。慶応義塾大学環境情報学部卒業。一橋大学大学院言語社会研究科修士課程修了。学術修士。同研究科博士課程単位取得満期退学。福島県立博物館勤務、宮城大学特任調査研究員、大正大学人間学部特命准教授、同地域構想研究所客員教授などを経て、2018年より現職。著書に『痛みのか（東北）論—記憶が歴史が変わるとき—』、『こども東北学』、共著書に『忘却の野に春を想う』『辺境』からはじまる—東京／東北論—など。



詳細情報も



Web版はより多くの情報を
随時更新しています。

まなびのめ

検索

http://manabinome.com/

10
OCT

「地域未来学」講座 10
「3.11 に向き合うということ
～震災伝承の現状と未来」(オンライン)

10月25日(土)

13:00▶14:30

無料 要申込

講師 武田真一氏 (公益社団法人 3.11 メモリアルネットワーク代表理事)

場 所 オンライン開講 (Zoom)

主催者 東北工業大学地域連携センター地域未来構築事業 問合せ TEL 022-305-3817

□

令和7年度館長講座
第7回「世界民族誌と東北縄文社会の復元」

10月25日(土)

13:30▶15:00

無料 要申込

講師 阿子島香氏 (東北歴史博物館館長)

場 所 東北歴史博物館 3 階講堂 定員 280 名 (先着)

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

□

文学講座「一葉作品を読む」①
「にぎりえ」を読む

10月26日(日)

13:30▶15:00

無料(要力) 要申込

講師 多田蔵人氏 (国文学研究資料館准教授) ※申込開始: 9/18 (木) 10:00 ~

場 所 仙台文学館講習室 定員 70 名 (先着)

主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

□

「地域未来学」講座 12「サスティナブル
な経済活動とエシカル消費～未来社会の
デザインに向けて～」(オンライン)

11月 1日(土)

13:00▶14:30

無料 要申込

講師 渡邊千恵子氏 (尚絅学院大学総合人間科学系社会部門教授)

場 所 オンライン開講 (Zoom)

主催者 東北工業大学地域連携センター地域未来構築事業 問合せ TEL 022-305-3817

□

白石市医師会市民公開講座
「耳寄りなめまいのはなし」(第 33 回白
石市生涯学習フェスティバル参加事業)

11月 1日(土)

13:30▶14:30

無料 申込不要

講師 橋本省氏 (宮城県医師会副会長)

場 所 白石市中央公民館 大ホール

主催者 白石市医師会 問合せ TEL 0224-25-0882

□

学都仙台コンソーシウムサテライトキャ
ンパス公開講座「住まいと健康」

11月 8日(土)

10:30▶12:00

無料 要申込

講師 長谷川麻子氏 (宮城学院女子大学生活科学部教授)

場 所 仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール 定員 40 名 (先着)

主催者 宮城学院女子大学教務課 問合せ TEL 022-279-4703

□

記念講演会「みやぎに生きられた民俗
一モノから見える人の生活一」

11月 8日(土)

13:30▶15:00

無料(要力) 要申込

講師 川島秀一氏 (第 33 期日本民俗学会会長)

場 所 東北歴史博物館 3 階講堂 定員 280 名 (先着)

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

□

後期基礎講座 第 2 回
「吉野作造の文章を読んでみよう」

11月 8日(土)

14:00▶16:00

無料 要申込

講師 氏家仁氏 (吉野作造記念館館長)

場 所 吉野作造記念館 定員 30 名

主催者 吉野作造記念館 問合せ TEL 0229-23-7100

□

講座「ミステリに描かれた仙台」

11月 9日(日)

13:30▶15:00

無料(要力) 要申込

講師 菊池雅人氏 (前仙台市広瀬図書館館長) ※申込締切: 10/31 (金)

場 所 仙台市歴史民俗資料館 定員 30 名

主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ folkmuse@deluxe.ocn.ne.jp

□

公開講座
「いざという時に困らない介護知識」

11月15日(土)

9:00▶10:30

無料 要申込

講師 大山さく子氏 (仙台大学教授) ※申込締切: 11/8 (土)

場 所 仙台大学川平キャンパス 定員 30 名

主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

□



「学び」イベント参加体験記

■【東北学院大学ヨーロッパ文化総合研究所公開講演会】
古代ローマ法研究の可能性—遺跡・遺物からみえるもの—

日 時: 令和7年6月21日(土) 15:00~16:30

講 師: 宮城渉氏 (筑波大学人文社会科学准教授)

場 所: 東北学院大学土樋キャンパス 8 号館 5 階ホール

主 催: 東北学院大学ヨーロッパ文化総合研究所

以前にも同研究所主催の講演会に参加したことがありましたが、リーフレットで知り、参加してみました。久しぶりです。

古代ローマに関してはインフラ施設に関心が強く、ローマ法は不得手な分野ですが、副題に誘われました。

「古代ローマ法という抽象的で難解とされるものを現代に残る古代遺跡・遺物から当時の人々の生活と法の実態に迫り、具体的なイメージを伝えたい」という趣旨のリーフレットの説明です。

講師は最近も在外研究としてイタリアに1年間行っていたそうです。講演でも自身が撮影した現地の遺跡・遺物のスライド写真が使用されていました。

撮影地はイタリアのみならずフランス、イギリスなどのヨーロッパ各地やアフリカなどにも広がります。

講演ではスライド写真を見ながら古代ローマ帝国の遺跡等を案内されているようでした。日々の生活や仕事の場面、娯楽、食から死(墓地)に関わるトラブルの16の判例について、史料に示された内容を遺跡や遺物の写真により視覚化して分かりやすく聴講者に伝えています。確かに当時のローマ人の生活や文化事情をよく知らないため史料の文章だけでは判然としない事例もあります。

講演資料では「テキスト(特に抽象的な法文)を読むだけでは具体的なイメージが湧かないが、遺跡・遺物を見てテキストを思い浮かべることでイメージを掴むことができ、思わぬ解釈の可能性も浮かぶとし、遺跡・遺物を見、テキストを読むことによって人々の営みと法や裁判の役割も知ることができる。」とまとめ、「このような取り組みはローマ法研究をより豊かに、魅力的に語るができる。」と締めくくります。

ところで、6月14日は17年前の平成20年に岩手宮城内陸地震が発生した日です。地震や土石流災害で被災した栗原市の被災地で、本務ではないものの職務として災害復旧事業に当たった経験があります。応急復旧工事が終わり、本格的な災害復旧工事の段階に進んだ頃、失敗学で有名な畑村洋太郎氏が現地を訪れた際に現場案内をしたことがあります。失敗学では失敗の調査は三現(現地、現物、現人)の実践が基本です。現地に行き、現場を見て、聞いて関係者の話を聞くことが必要条件です。現人の立場で研究者との会話から地震現象について気付かされる事もありました。

どの分野でも様々な調査研究を進めるうえで、現地・現物を見て、現地の人に話を聞いて確認することの重要性は変わりません。古代ローマ法では現人から直接聞くことはできないので、史料の解釈がそれに代わるとは思いますが、想像力も必要でしょう。研究者にとっても、古代ローマ法研究を聴講者に分かりやすく伝えるだけではなく、研究も深化させることがあるのかなと思ったりもします。(仙台市 栗蔵)

「まなびのめ」配色法: 襲色目(かさねのいろめ)
第70号・秋/「紫苑」(si-on)



Voice Park

読者と編集部
の
キャッチボール

第69号

ケア

「学び」イベントは無料やオンラインで開催されるのも多いですね。これだと気楽に行きやすいし出席しやすいから他の方にも教えたいと思います。(柴田郡柴田町・57歳)

編: ぜひお知り合いへご紹介ください! ご参加された際には、「参加体験記」もお待ちしております。抽選で図書カードをプレゼントしておりますよ!

.....

「名著への旅」コーナーは、宮城県関係の内容の本、宮城県民や宮城県関係者が自費出版した本、宮城県の出版社の本などを取り上げてほしいです。(大崎市・57歳)

編: 貴重なリクエストをありがとうございます。ちょうど気になっている書籍が条件に合っていると思うので読み終えたら、ご紹介したいと思います。

.....

御誌を初めて見つけ手にしました。時間つぶしのつもりで読みましたが、参考になる内容で、年長の娘との接し方や言葉のかけ方について考えさせられ、今後の参考になりました。

(白石市・32歳)

編: 初めて手に取ってくださりありがとうございます。すこしでも日頃の子育ての参考になれば大変嬉しいです。

.....

子育ては終わり、しばらく一息ついていた状態でしたが、親の介護に携わるようになり、高齢者のケアと最期については身近な問題になりました。いろいろな人と話したり、交流の場に参加していくことが大切かと思うこの頃です。

(仙台市青葉区・72歳)

編: 「ケア」を担う人たちが一人で不安や悩みを抱え込まないで済むような社会作りが求められていきますね。

.....

初めて手にしました。「クイズ」、私でもと思い応募しました。沢田先生の話って、今の私のことではないか、と読ませて頂きました。(仙台市若林区・81歳)

編: 初めて手に取ってくださりありがとうございます。何事も「自分事」で考えるとより深く感じるができますね。

.....

講座の講師が高校の恩師。参加しようか、それとも…。(石巻市・35歳)

編: ぜひご参加ください! 先生もお喜びになることでしょう。ご参加された際には、「参加体験記」もお待ちしております。抽選で図書カードをプレゼントしておりますよ!

.....

5歳の子供がいます。毎日、子育ては難しいと感じていました。富澤先生のペアレント・トレーニングの記事を何度も読みました。最後の4つのアドバイスを忘れずにこれからも子育て頑張りすぎないように楽しもうと思います!(石巻市・35歳)

編: 我が子とは言えど「一人の人間」を育てるとということの大変さはご本人にしかわからないことが多々あることでしょう。本誌の記事が少しでもお役に立てれば幸いです。

その他のお便りと編集部からのコメントはWeb版でご覧いただけます。

これからの主な「学び」イベント

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/



予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

11
NOV

学都仙台コンソーシウムサテライトキャンパス
公開講座「身近な粉の面白さを見つけてみませ
んか～幼虫の糞の形から雌雄が分かるかも?～」

11月15日(土)

10:30▶12:00

無料 要申込

講師 高井千加氏 (名古屋工業大学・東北大学教授)

場 所 仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール 定員 50 名 (先着)

主催者 東北大学教育・学生支援部 教務課教育支援係 問合せ TEL 022-795-3925

□

学都仙台コンソーシウムサテライトキャ
ンパス公開講座「粉の動きを知る」

11月15日(土)

13:30▶15:00

無料 要申込

講師 加納純也氏 (東北大学教授)

場 所 仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール 定員 50 名 (先着)

主催者 東北大学教育・学生支援部 教務課教育支援係 問合せ TEL 022-795-3925

□

学園創立150周年記念I講演会
「芹沢銈介作《釈迦十大弟子尊像》
一型絵染への挑戦一」

11月15日(土)

13:30▶15:00

無料(要力) 要申込

講師 門脇佳代子氏 (東北福祉大学准教授) ※電話にて申込受付

場 所 東北福祉大学国見キャンパス 定員 100 名

主催者 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館 問合せ TEL 022-717-3318

□

「地域未来学」講座 15「廃棄物からパイ
オエネルギー生産一持続可能な循環型社
会を目指して一」(オンライン)

11月15日(土)

14:45▶16:15

無料 要申込

講師 北條俊昌氏 (東北工業大学工学部都市工学課程准教授)

場 所 オンライン開講 (Zoom)

主催者 東北工業大学地域連携センター地域未来構築事業 問合せ TEL 022-305-3817

□

学都仙台コンソーシウムサテライトキャ
ンパス公開講座
「「遊び」で子どもも大人も元気になる」

11月22日(土)

10:30▶12:00

無料 要申込

講師 犬塚千賀子氏 (東北文化学園大学リハビリテーション学科作業療法学専攻講師)

場 所 仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール 定員 50 名 (先着)

主催者 東北文化学園大学地域連携センター 問合せ TEL 022-233-3451

□

講演「樋口一葉・その魅力と現代性」

11月22日(土)

13:30▶15:00

無料(要力) 要申込

講師 小池昌代氏 (詩人・小説家) ※申込開始: 10/10 (金) 10:00 ~

場 所 仙台文学館講習室 定員 70 名 (先着)

主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

□

学都仙台コンソーシウムサテライトキャ
ンパス公開講座
「「個性」の魔法をとく教育思想史」

11月29日(土)

10:30▶12:00

無料 要申込

講師 梶川萌氏 (尚絅学院大学総合人間科学系教育部門講師)

場 所 仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール 定員 50 名 (先着)

主催者 尚絅学院大学長町サテライトプラザ 問合せ TEL 022-302-6145

□

公開講座「プロレスの教養論」

11月29日(土)

10:40▶12:10

無料 要申込

講師 小田桂吾氏 (仙台大学准教授) ※申込締切: 11/22 (土)

場 所 仙台大学川平キャンパス 定員 30 名

主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

□

せんだい文学塾 11 月講座

11月29日(土)

16:30▶18:30

有料 要申込

講師 角田光代氏、井上荒野氏、江國香織氏 (直木賞作家たち)

場 所 仙台文学館 定員 72 名

主催者 せんだい文学塾 問合せ sendaibungakujuku@gmail.com

□

文学講座「一葉作品を読む」②
「たけくらべ」を読む

11月30日(土)

13:30▶15:00

無料(要力) 要申込

講師 笹尾佳代氏 (同志社大学教授) ※申込開始: 11/7 (金) 10:00 ~

場 所 仙台文学館講習室 定員 70 名 (先着)

主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

□